

4 調査結果

【小学校 第5学年】

平均正答率（％）

教科	目標値	香取市平均	全国平均
国語	68.6	71.0	73.3
社会	67.0	65.9	69.0
算数	62.1	60.7	62.1
理科	67.9	76.4	73.9

目標値…学習指導要領の内容を平均的な配当時間で指導した場合に、児童が正答できることを期待した割合を示したもの。

【全体的な傾向】

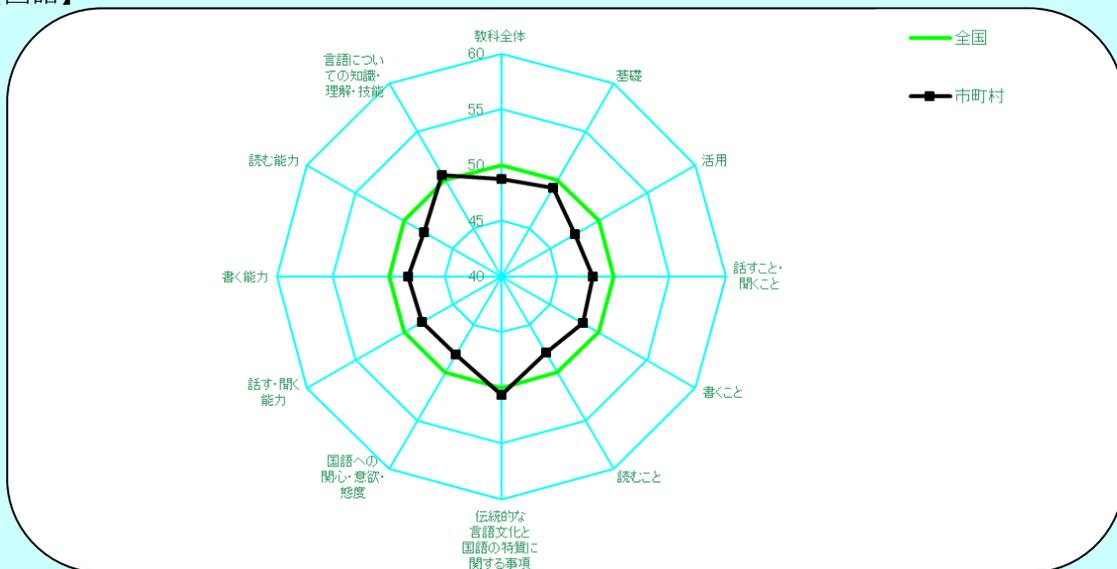
全体として昨年度をやや下回る結果となった。

教科別に市平均正答率と全国平均正答率（以下、全国平均）を比較すると、理科は継続して全国平均を上回った。国語は、目標値を上回るものの全国平均を下回る結果となった。社会、算数は目標値、全国平均ともに下回り、改善に向けて課題が見られる結果となった。

【小学校の教科ごとの傾向】

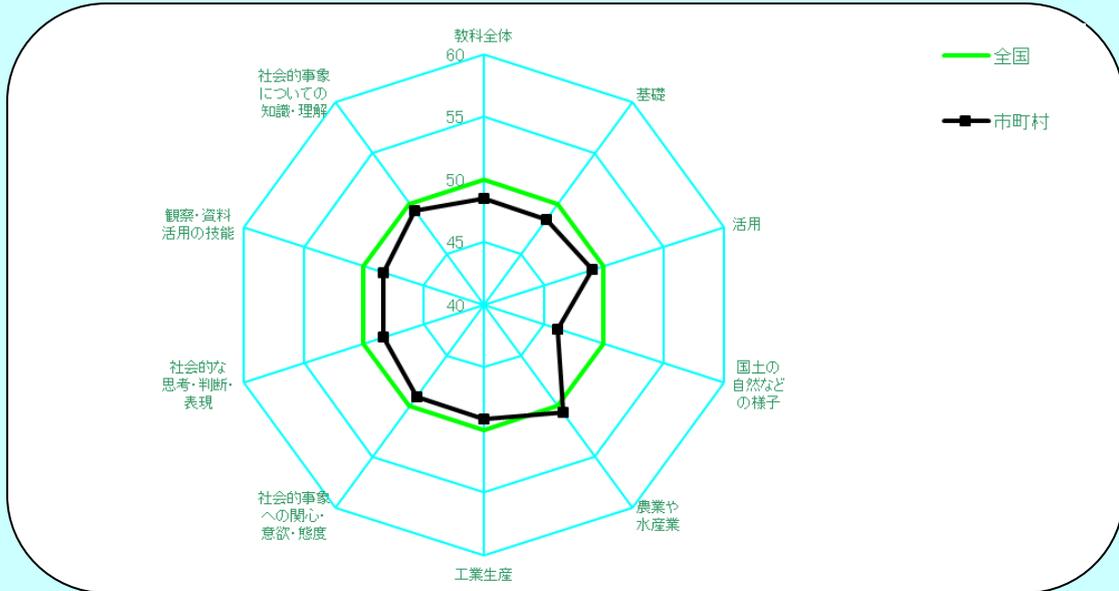
※グラフは全国平均を50として、香取市の平均正答率を相対的に表したものです。

【国語】



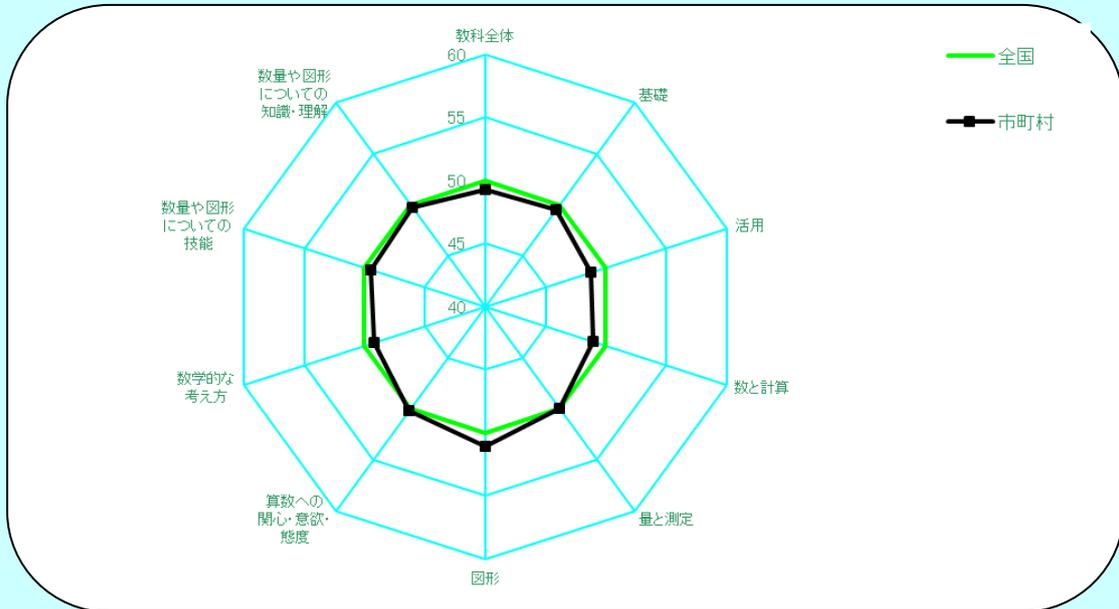
昨年度に続き、「言語についての知識・理解・技能」についての数値が全国平均を上回った。特に、漢字の読み書きに関する問題は正答率が高く、成果が見られた。他の領域は全国平均を下回り、「読む能力」については、物語文における場面の描写や登場人物の様子や心情を読み取る力に課題が見られた。また、記述問題に関しては指定された長さや段落構成で文章を書くことに課題が見られるため、指定された条件のもと書く活動に日頃から取り組む必要がある。

【社会】



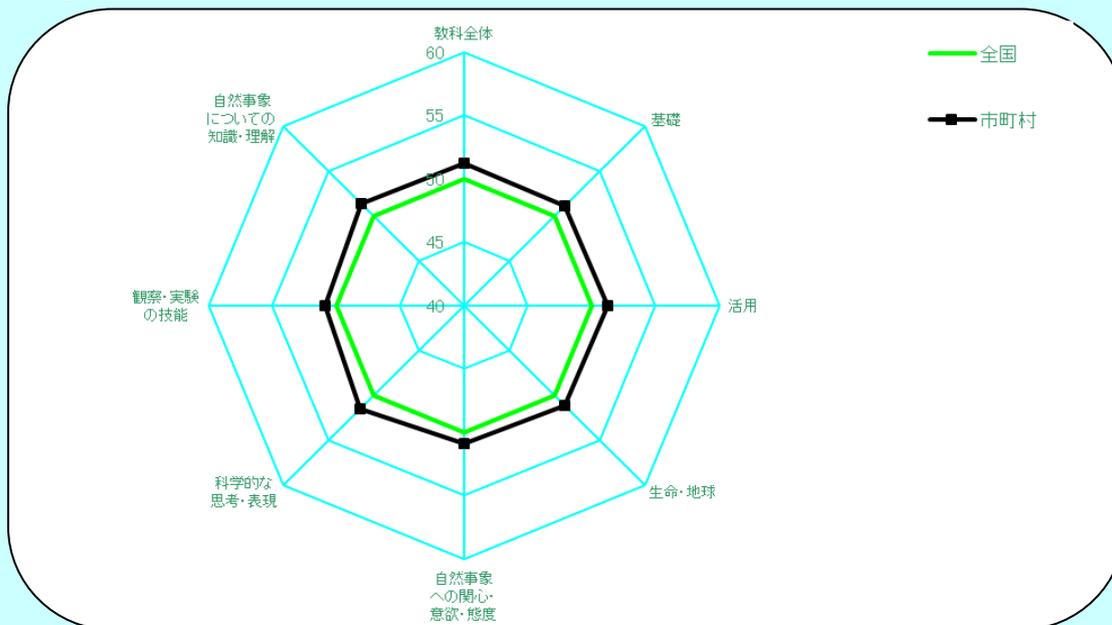
「基礎」「活用」ともに全国平均を下回る結果であった。「農業や水産業」については全国平均をやや上回ったが、他の観点は全て全国平均を下回り、特に「国土の自然などの様子」に課題が見られた。グラフの数値から考えたり、複数の資料を比較して考えたりと、資料を適切に読み取る力の向上を図る必要がある。

【算数】



「基礎」は全国平均と同程度であるが、「活用」がやや全国平均を下回る結果となった。「算数への関心・意欲・態度」については、昨年度に引き続き全国平均を上回り、算数科の学習に対する児童の意欲の向上が成果として見られる。小数や分数の基本的な計算問題にやや課題が見られ、また、提示された条件に適した式や問題を選択する問題にも課題が見られる。基礎基本となる計算力の向上を図るとともに、活用力を問う発展問題にも、日頃の学習から取り組む必要がある。

【理科】



「基礎」「基本」ともに全国平均を上回る結果であった。特に顕微鏡の使い方に関する問題は正答率が高く、観察・実験に関する技能の確かな定着が見られる。また、「科学的な思考・表現」に向上が見られ、特に記述問題の正答率が高く、児童の表現力の高まりが見られた。「天気の変化」における台風の動きについての問題に課題が見られた。複数の資料を比較し、台風の進路に関する規則性について検討したり、進路の予想をしたりするなど思考する場面を設定し、より確かな定着を図る必要がある。